

食農体験ネットワーク登米協議会

とめし
〔宮城県登米市〕

- 地域資源を魅力ある農泊体験コンテンツとして磨き上げるため、協議会を設立。
- 滞在型体験を目的として、広さ約1ヘクタールの観光農園を整備し、田んぼオーナー制度によるお米作りや、ブルーベリー栽培、レンコン栽培等、参加型農園の開拓を実施中。他約2ヘクタールの農場整備など、都市からの体験者の増加をねらう。
- 農泊の普及に繋げるために体験プログラムを活用した。
- これまで取り組んできた「食」「農」「自然」のキーワードに「スポーツ」をプラスし、登米市ならではの「スポーツと連携した農泊」を打ち出した。

宮城県登米市



【実施体制】

食農体験ネットワーク登米協議会

＜事務局＞
(株)ブランド総合研究所
・農泊研修及びセミナーの企画
・民泊や体験に関するマニュアルの作成・発行
・農泊・体験のためのパンフレット作成・発行 等

＜実施主体＞
農業生産法人(有)伊豆沼農産
・体験メニュー等の企画・運営
・宿泊の予約・受け入れ農家の調整
・情報発信等

登米市助言

農産品直売所

飲食店

宿泊施設

観光施設

関連業者

- 地域資源を魅力ある農泊体験コンテンツとして磨き上げることを目的に設立。
- 農業生産法人(有)伊豆沼農産(宮城県登米市)と株式会社ブランド総合研究所(東京都港区)、登米市(宮城県)とで結成し、役割分担・責任体制の明確化を図る。

【特徴的な取組(伊豆沼農産)】

- 農泊利用実態調査を平成29・30年度で行い、農泊利用者のニーズを把握
- 大人向けの滞在型体験プログラムの検討・開発
登米の赤豚を使った屋台BBQ、登米市の食材を使った薫製体験
- スポーツと連携した農泊の受入(2019年3月23～24日東北風土マラソン)
- 企業向け研修・福利厚生受入プログラム検討・開発



登米市の食材を使った屋台BBQの試験販売
(東北風土マラソン&フェスティバル)



企業向け福利厚生プログラムチラシ

【採 択 年 度】
平成29年度

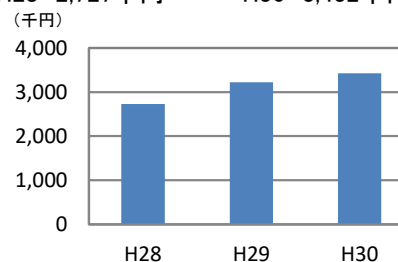
【事業実施期間】
平成29～30年度



【取組内容】

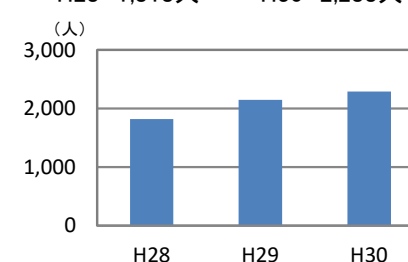
○体験プログラム売上

H28 2,727千円 → H30 3,432千円



○農林漁業体験者数

H28 1,818人 → H30 2,288人



＜体験プログラム売上および体験者数の実績＞

・体験プログラムの売上および体験者数は徐々に増加している。

＜伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターでの体験プログラム実績＞

・登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターにおいて、農泊事業で作成した体験プログラムの募集・告知を行ったところ、569人が参加した。

【農泊の取り組みに対する取材・雑誌掲載】

・2018年9月取材 農林中金総合研究所:「農中総研情報5月」(2019)「お母さんの手料理と風土を楽しむ農泊ー伊豆沼農産の取り組み(宮城県登米市)ー」pp. 30ー31

【メディア関連】

【新聞】

- 読売新聞宮城県版 2月20日朝刊
- 河北新報 3月15日朝刊
- 大崎タイムス 3月18日
- 仙北郷土タイムス3月号(登米市内月刊発行雑誌)

【テレビ】

- TBC東北放送 3月13日 放送

【ラジオ】

- 登米コミュニティエフエム



インバウンド対応状況(青:対応)

Wi-Fi	洋式トイレ	キャッシュレス	外国語HP	外国語案内表示	外国語ネット予約